

第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会(花園大会)

今朝の気温は0度でした。朝、雨がパラパラと降っていました。昼頃には止み、雲間から青空も確認できました。今日は2017年の終わり、大晦日です。



試合開始



ラックから攻撃へ



ラインアウトでボールを奪い合う

昨日(12月30日)、「第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会」の初戦(2回戦)応援のため、「近鉄花園ラグビー場(東大阪市)」に出かけました。愛知県代表の中部大春日丘はBシードのため、30日の2回戦に登場し、大分舞鶴(大分)との初戦に臨みました。

試合開始2分、ゴール前のラックから先制トライを決めました。その直後にもトライを決めました。10分が経過した頃、相手のモールに押され、トライを奪われましたが、以降は崩れることなく前半で4つのトライを重ねました。後半はボールをつなぎ、走力を生かしたトライなどで大分舞鶴を引き離しました。ミスから自陣ゴール前に押し込まれる場面もあり、ヒヤヒヤしましたが、シード校の貫禄でしのぎました。結果、計6トライを挙げて38-5と快勝しました。序盤から走力を生かした攻撃を展開し、熱を入れて応援(観戦)できました。試合は近鉄花園ラグビー場のBコートで行われました。Bコートは非常にフィールドと観客席が近く、試合中に選手間で行われるコミュニケーションがとても良く聞こえて来ました。そのコミュニケーションには魅力がありました。それは、ただ声を張り上げるのではなく、意味のあるコミュニケーションだったからです。選手のニックネームは私にはわかりませんが、“誰が大分舞鶴の何番をディフェンスするか”、“誰が外を見て誰が内を見るか”など、適切な声かけが途切れる事なく行われていました。この声がエネルギーになっていたと感じる試合でした。周囲に合わせて、私もはじめは、「攻めろ」「スクラム」「トライ」と叫びながら応援していましたが、選手の声が耳に届いた瞬間から、その声を楽しんでいました。

多くのスポーツで「声を出せ!」と言われますが、意味のない声かけだけでは勝つことができないのでしょう。球技最多の15人で戦うラグビーだからなおさら、的確で活発な声(コミュニケーション)が重要なのだと感じました。プレイ中に、的確で活発なコミュニケーションがなければ、うまく球は回せないし、相手のスキもつかない。その結果、無意味な行動ばかりが増えてしまうことになるのだろうと今回の観戦で感じることができました。これは、社会(学生)生活でも重ねることができます。例えば、commons・インターンシップにおいても、“仕事のパスを出したいけれど、どこにパスをだしたらいいかわからない”という話を聞いたことがあります。“周りの人が何をやっているのかわからない”のは、コミュニケーションの不足か、コミュニケーションはしているが、意味のない言葉ばかりのコミュニケーションかも知れません。適切で活発なコミュニケーションができると、ラグビーのプレイが勝利に通ずるのと同じです。私はこれを機会に、帰りの電車の中で自分のコミュニケーションを再考してみました。

さて、今年もあと約3時間で終わります。この1年、どんな1年でしたか?満足できる1年でしたか?多くの方が激動の1年だったと思います。私の1年も刺激的でしたが、本当にたくさんの方に支えられて、感謝の気持ちで一杯です。気づいたら、私のまわりは、誰もが“自分の好き得意で貢献し、楽しく成功できる場”“自分らしく助け合って、お互い成長し合える場”になっていました。ありがとうございました。

皆さん、今年「チャレンジ」したことは、何ですか？「感謝」したいことは、何ですか？「自分らしい」って、感じたのは、どんな時ですか？
ぜひ、除夜の鐘を聞きながら、そんなことを、自分に問いかけてみてください。

来る年も皆さんにとって良き1年となる様に願っています。では、風邪などひかないように。新年、元気な顔で会いましょう。良き新年をお
迎えてください。

コモンズセンター長 伊藤 守弘